

6 事例

(1) 各校種における学習指導案

事例① (小学校)

第5学年〇組 家庭科学習指導案

平成20年〇月〇日 (〇) 第〇校時

児童数 〇〇名

授業者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材名 「針と糸で作ってみよう」 内容(3)ア、イ、ウ

2 題材について

(1) 児童観

5年生からスタートした家庭科に、児童は大変意欲的に取り組んでいる。その意欲を生かしなが
ら、これまで学習を進めてきた。これまでに、児童は玉結び、玉どめ、なみ縫いなどの手縫い
の基礎的な技能を身に付け、ネームプレートを製作した。事前に行った布を用いた製作に関する
調査によると、自分で針と糸をもって縫ったことのある児童は半数で、技能の習得には個人差が
みられた。しかし、自分の好きな形に切ったフェルトを用いて、既習の縫い方を生かしなが
ら名前の縫い取りを行うことを通して、児童は、一つの作品を作り上げることの喜びを味わうことが
できた。

<布を用いた製作に関する児童の実態>

○家庭科は好きですか。

	「好き」……………27人	「嫌い」……………1人
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・調理をしたり、縫い物をしたりするのが楽しいから ……7人 ・調理が楽しいから ……6人 ・いろいろな物を作るから ……3人 ・食べ物を食べられるから ……2人 ・みんなで協力して作るのが楽しいから ……2人 ・普段やったことのないことができるから ……2人 ・料理や縫い物など家事の教科だから ……1人 ・難しいけれど楽しいから ……1人 ・家庭の事の授業が好きだから ……1人 ・縫い物をやるから ……1人 ・家庭で役立つことができるから ……1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・縫い物などが苦手だから

○針と糸を持って縫ったことがありますか。

	「ある」……………14人	「ない」……………14人
縫った物	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコット…6人 ・手提げ…3人 ・ぞうきん…2人 ・きんちゃく袋…1人 ・ネームプレート…1人 ・ボタン付け…1人 ・縫い方の練習…1人 ・学校の帽子のゴムひも…1人 ・靴下にあいた穴の繕い…1人 <p style="text-align: right;">(複数回答)</p>	

○家族が針と糸を使っているのを見たことがありますか。

・「ある」……………26人	・「ない」……………2人
---------------	--------------

(2) 題材観

本題材は、手縫いの基礎的な技能を身に付け、生活に役立つ物を製作して活用することをねらいとしている。日常生活の中では、既製の衣服を身に付けたり、袋物を購入したりすることが多く、家庭で針と糸を用いて製作する必要性が薄れてきている。しかし、児童の中には、小学校入学時に家族が布を用いて製作した袋物を今も使用していたり、体育帽子のゴムひもや衣服のボタンがはずれたりした時に、家族に付け直してもらった経験をもつ児童も多く、針と糸を用いてできることについての関心も高い。そこで、手縫いの基礎的な技能を身に付け、生活に役立つ物を工夫して製作することを通して、児童が自分で衣服の手入れができる喜びや、物を作り上げていく達成感を味わうことができるようにしたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導観

展開に当たっては、針と糸を使って布を縫った経験について振り返ることから、布を用いた製作への関心を高めていく。そして、用具の安全な使い方について学び、針と糸で簡単な縫い方ができるようにしていく。また、玉結び、玉どめ、なみ縫い、ボタン付けなどの技能を生かして、自分で工夫して小物を作る喜びや、日常生活で活用することの楽しさを味わうことができるようにする。学習にあたっては、縫い方の見本や評価の段階に応じた作品を提示し、児童が主体的に見通しをもって活動することができるようにする。題材の最後には手縫い検定を行い、手縫いの基礎的な技能を身に付けることができたか確認するとともに、児童がめあてをもって、次の学習に取り組んでいくことができるようにする。

本時は、これまでに学習した玉結び、玉どめ、なみ縫い、ボタン付けなどの技能を生かして、フェルト地を用いて小物の製作を進めることをねらいとする。前時までには、製作計画に基づいてしるしを付けて裁断したフェルトに、一人一人の計画に沿って工夫して飾りを付けたり、縫ったりして小物の製作を進める。児童が主体的に活動することができるよう、評価の段階に応じた作品を提示したり、アイロンなどの用具の配置を工夫する。そして、生活に役立つ小物を、自分で製作することのできる喜びを味わうことができるようにする。

3 題材の目標

<家庭生活への関心・意欲・態度>

○生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作に必要な材料や用具等を準備し、手縫いで製作しようとしている。

○製作する楽しさや活用する喜びを味わい、生活に生かそうとしている。

<生活を創意工夫する能力>

○生活に役立つことができるよう、目的に応じた簡単な縫い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。

<生活の技能>

○手縫いに関する基礎的な技能を身に付け、目的に応じた簡単な縫い方ができる。

<家庭生活についての知識・理解>

○玉結び、玉止めなどの必要性を理解し、手縫いに関する基礎的な縫い方や用具の安全な使い方が分かる。

4 題材の評価規準

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作し、活用しようとしている。	布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な技能を身に付けている。	布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な事項について理解している。

5 題材の指導計画・評価計画(9時間扱い)

小題材名	時	学習内容	主な学習活動	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
針と糸で作ってみよう	1	○針と糸を使った経験についての振り返り ○製作に必要な裁縫道具	○針と糸を使って布を縫った経験などを話し合う。 ○縫うのに必要な道具の使い方を知り、自分で裁縫道具をそろえる。	関○製作に関心を持ち、手縫いで製作に取り組もうとしている。	発言 ワークシート
				知○裁縫用具の名前や安全な取り扱い方がわかる。	ワークシート
	2 3 4 5	○玉結び、玉どめ、なみ縫い ○ネームプレート作り	○フェルトを自分の好きな形に切り、名前の縫い取りをする。	技○手縫いで名前の縫い取りをすることができる。	活動の様子 作品
				知○手縫いによる簡単な縫い方がわかる。	ワークシート
				6 7	○小物の製作計画 ○小物の製作
	創○製作するものやその製作計画について考えたり工夫したりしている。	ワークシート 作品			
	9			技○製作に必要な用具を安全に扱い、小物の製作をすることができる。	活動の様子 作品
				関○小物を製作する楽しさを味わい、生活に生かそうとしている。	発言 ワークシート
	10	○手縫い検定	○手縫いの技能を確認する。	技○手縫いの基礎的な縫い方ができる。	手縫い検定布

※小中高連携の視点から、10時間目の「手縫い検定」を設定した。

6 本時の学習指導(8/10時)

(1) 目標

・製作に必要な用具を安全に扱い、小物の製作をすることができる。

(2) 展開

学習活動	教師の働きかけ○・評価規準◆<観点>(方法)	資料等	時間
1 本時の学習内容を確認する。	A：十分満足 B：おおむね満足 →：手立て ○本時は、これまでに学習した玉結び、玉どめなどの技能を生かして、用具を安全に使って小物を製作していくことを伝える。	・めあての掲示 ・ワークシート	3分

用具を安全に使って、生活に役立つ小物を作ろう

2 用具の扱い方と、小物の製作の仕方を確認する。

- アイロンを使って小物の製作をする児童もいるので、アイロンの安全な使い方について全体で確認する。
- 指ぬきを有効に使うことができるよう、使い方を確認する。
- 玉結び・玉どめが表に出ないように伝える。
- 縫い始めや取り出し口、縫い終わりは、丈夫になるよう、作品に応じて一針か二針返して縫うよう伝える。
- 縫う際に、縫い目や飾りの付け方に気を付けて製作することができるよう、作品のできあがりをもつて小物の製作に取り組むことができるようにする。

- ・ 掲示用資料 7分
- ・ アイロン
- ・ 裁縫用具
- ・ 縫い方の見本
- ・ 作品の段階見本

3 小物の製作をする。

- 糸を通すのに時間のかかる児童には、あらかじめ、針に糸を通しておくよう伝えておく。
- 計画表を確認しながら、製作を進めるよう伝える。

- ・ 評価のレベル見本 2.5分

4 友達の作品を見て、よいところを発表する。

- 何人かの児童の作品を実物投影機を用いて映し、よいところを見つけて発表するよう伝える。
- 児童の作品を賞賛すると共に、これからの作品作りに、友達のよいところを生かしていくよう伝える。

- ・ 実物投影機 5分



◆製作に必要な用具を安全に扱い、小物の製作をすることができる。

<生活の技能> (活動の様子、作品)

A：製作に必要な用具を安全に扱い、飾りの付け方や縫い方に気を付けて小物の製作をすることができる。

B：製作に必要な用具を安全に扱い、小物の製作をすることができる。

→飾りの付け方や縫い方に気を付けて製作するよう伝える。

指導を要する児童への手立て

→作品の計画表を見て手順を確認したり、縫い方や作品の見本を提示したりして、を確認できるようにする。

5 本時の学習の振り返りをし、次時からの学習の見通しをもつ。

- 針の本数やアイロンの後始末の仕方に気を付けて、後片付けをするよう伝える。
- 本時の学習を振り返り、小物の製作をした感想をワークシートに書くよう伝える。次時は、小物を仕上げることを伝える。

- ・ ワークシート 5分

※授業中の生徒の様子



アイロンは、ど
んなところに気
を付けてつかえ
ばいいのかな？



「いいねレベル」
になるように、て
いねいにぬうぞ！

評価のレベル見本

